

# さくら並木

～仙南地域最大の課題

これからの地域医療を考える～

大河原町長 齋 清志

今、報道をにぎわす『地域医療構想』という言葉をご存知でしょうか。将来人口の推計をもとに団塊の世代が75歳となる2025年に必要となる病床の機能別必要量を予測し、地域での調整会議を通じて病床機能の分化と連携による効率的な医療提供体制を実現する取り組みです。堅苦しい説明ですが、昨年に厚労省が発表した『全国424病院の統廃合を含めた再編の検討を求める実名公表』が話題となり、反発と波紋を呼んだ件と言えればお気づきの方も多いのではないのでしょうか。

そして、1月末までにこの構想に基づく地域の中核的病院の『重点地区指定』がなされる筈で、県南では財務状況の改善が急務とされる中核・刈田の両院が指定されるものと受け止められています。県と東北大学病院が示した考えでは、中核病院は救急や外科手術などの急性期を、刈田病院は病床のダウンサイジングを行いリハビリや透析の回復期を担い、医療機能の分化を図りながら将来の再編・ネットワーク化につなげるとされています。

しかし、この様な大きな課題に取り組もうとする最中に、中核病院での分娩休止という衝撃的なニュースが飛び込んできました。(10月より仙台や岩沼の病院での産科セミオープンシステムへ移行)人口減少と同時に

進む少子高齢化の中にあつて、仙南医療圏の周産期母子医療の環境が大きく変わろうとしています。仙南2市7町と中核病院企業団として、年末に県知事への要望活動を即座に実施しましたが、更なる人口減少への危機意識など仙南医療圏全体にとつての社会問題として共通に認識されることが重要でした。

本町は、診療所15施設、歯科診療所16施設、薬局16施設が存在する医療環境に恵まれた町です。また、地域包括支援センターが活発に機能し、行政区や老人クラブでの健康教育室が早い時期から実施され、介護認知症等の予防活動も盛んに行われてきました。その結果として、住民の健康意識が高く特に後期高齢者の健康診査の受診率の高さや、要介護認定率の低さなどは県下トップの状況です。しかし、地域医療が抱える課題の前ではこの自慢の種も霞んでしまふようなのが残念でなりません。

かつて、NHKの『視点・論点』という番組で、『これからの医療を考える』と題する識者の解説がシリーズで放映されました。(1)2025年の医療・介護の姿は、(2)問われる地域の総合力、(3)地域まるごとケアとは、というテーマでしたが、なぜか『社会保障と税の一体改革』というくくりでの論説であったことが印象に残っています。1990年代後半から約10

年間に社会保障の費用が抑制されたことに起因しているものと認識しています。

その後の医療改革は、医療・介護関係の法律の大幅な改正を経て、効率的で質の高い医療の実現を目指し、地域包括ケア体制(地域で支えあう暮らし)の構築、そして都道府県が医療圏ごとに『地域医療構想』を策定することへとつながってきました。介護保険制度も在宅医療と介護の連携の推進や市町村が介護予防・日常生活支援事業を行うとするなどの改革がなされてきました。

本町の推進する『長期総合計画』には東日本大震災や激甚化・広域化する自然災害などに対応し、『生命と安全を守る』ことを行政の基本的使命として掲げています。併せて、医療・介護・福祉施策の充実による暮らしの安全・安心を目指すとしています。仙南地域に限らず、地域医療の抱える課題解決が人の生命を守り、人と人、人と地域をつなぐ大きな行政課題となっていることを改めて自覚したところです。

(1月16日記)



▲県知事へ要望書の趣旨説明をする齋町長

# えずこホール イベント案内

AZ9ジュニア・アクターズ第27回公演

## こけしぐんと ニポポちゃん ～白石侍北へ行く～



仙南地域 2市7町の小学校4年生から6年生で構成された児童劇団、AZ9 ジュニア・アクターズの今回の公演は白石市が舞台です。片倉景光をはじめとする仙台藩白石の人々は、戊辰戦争に敗れ北海道へ移住しました。その土地に住む強くてこわいオオカミを倒すため、アイヌの人々と一緒に、とんでもね〜ありえね〜作戦を立てました。子どもたちの伸びやかな演技とエネルギッシュなダンスをどうぞお楽しみください！！

2020  
2/8[土]  
9[日]  
両日14:00開演

TICKET 全席自由  
一般 1,000円  
U-24 600円  
親子ペア 1,400円  
※4歳未満入場不可

### みんなあいてよ! えずっこひろば ～親子で楽しむ遊びの場所～

おもちゃいっぱい遊びのコーナーや、カフェスペースでおいしいお茶を、おとなも子どもものんびりできるくつろぎ空間です。2月は楽しいひな祭り工作を行います。親子で一緒に歌って、踊って、遊びましょう！

2/5 [水]  
10:00～12:00  
ホワイエ 参加無料

※出入り自由/申し込みの必要はありません。



えずこホール  
仙南芸術文化センター

お問い合わせ TEL 0224-52-3004  
〒989-1267 柴田郡大河原町字小島1-1  
URL : <http://www.ezuko.com/>  
info@ezuko.com



# 学び舎通信

町内小中学校の情報を  
毎月お届けします



「書きぞめ練習」で切磋琢磨

毎年の冬場の風物詩といえは書きぞめ練習。本校では毎年、通常の教室よりも広い多目的室にブルーシートを敷いて、書きぞめの練習場として使用しています。卒業を控える3年生にとつては、最後の取組となります。お手本は学年とともに難易度が上がり、3年生は行書で「青雲」です。行書の文字は、普段ノートを取ったりするときに書いている文字とは違って筆の流れが大切になりませんが、みんな驚くほど意識して書けているようでした。書きあがった作品を互いに見合っつては、評価し合う姿も至るところで見られました。優秀な作品は地区の書きぞめ展に進みますが、どの作品も味



金ヶ瀬  
中学校

があり思いのこもったものとなつていきます。3年生にとつては、共に過ごす日々も残り少なくなってきました。この書きぞめ練習のように互いに高め合いながら、それぞれの目標に向かって全力を尽くしていったってほしいと願っています。

「身近に読みたい本がある生活を」

12月に幼稚園の子どもたちが小学校見学に来て来ました。1年生の各教室を訪問し、交流活動を行いました。その活動では、1年生が暗唱読本の「いろはにこんぺいとう」などをクラスのみんなで声をそろえて発表しました。幼稚園の子どもたちは、1年生がリズムに乗ってすらすらと発表する姿を見て大きな拍手を送っていました。3学期が始まりました。休み時間には、低学年・中学年の図書室には多くの子どもたちが訪れています。読みたい本をすぐに見つかるように選ぶ子

や書棚に並ぶ本をじっくりと見ながら選ぶ子の姿から、身近に読みたい本がある生活を送っていることが分かります。本校では、暗唱集会のある月には、図書館に暗唱読本と同じ作者の作品や関係する作品のコーナーを設け、読書の幅を広げたり、興味・関心を高めたりしています。今後も、子どもたちの暗唱への取組や読書活動をさらに充実させていきます。



## 暗唱大好き

大河原  
小学校